

成道会

平成22年12月第1週放送

お釈迦さまがお悟りを開かれた事を「道^{みち}を成^なした」と書いて『成道^{じょうどう}』と言います。この成道された日は古代インド暦の「ヴァイシャーカ月の満月の夜」と言われ、日本では十二月八日とされています、この日に『成道会^{じょうどうえ}』という法要^{いとな}を営みます。

お釈迦さまがお悟りを開かれる時に悪魔がお釈迦さまの邪魔をしたという逸話が残っています。その中でも有名なのが、三人の悪魔の娘たちによる話です。

すでにお釈迦さまの修行を邪魔^{そこ}し損ねた悪魔が、うな垂^だれて地面^かを掻きながらすわっていると、三人の悪魔の娘たちが、なぜ悲しんでいるのかと悪魔に問いかけます。悪魔は「あの幸せ^{ゆうわく}な人を誘惑^{りょういき}するのは容易^{だっ}ではない。彼は悪魔の領^{りょういき}域^{だっ}を脱している^{だっ}ので、わたしは憂^{うれ}いているのだ。」と答えます。

三人の悪魔の娘たちはお釈迦さまに近付き話しかけますが、お釈迦さまは気にもとめません。次々と三人でお釈迦さまの修行を邪魔しようとしませんが、お釈迦さまは心静かに坐禅を組んでいます。

悪魔の娘たちは「父の言った事は本当である。」と認め、まず一人の娘が問いかけます「なぜ、ひとり森^{ひと}の中で瞑想^{めいそう}しているのですか？ 失った財産を取り戻そうとしているのですか？ 何か罪を犯したのですか？・・・なぜ、人々と付き合わず、誰とも友にならないのですか？」と。

「目的の達成と、心の安らぎと、楽しい悟りを独りで思う故^{ゆえ}に人々とも付き合わず、誰とも友にならないのです。」とお釈迦さまは答えます。

次に二人目の娘が問いかけます「どのように瞑想をすれば、身体^{からだ}や心の欲^こを超えられるのですか？」と。

「身体や心は迷いを作り出す事無いと気づき、執^{しゅうちやく}着も無く、真理を熟知して、思考する事無く瞑想し、怒らず、悪を思わず身体や心^{だま}を黙らせるならば、身体と心の欲^{だま}を超えられる。このように坐禅すれば外からの欲^{まど}に惑わされる事は無い。」とお釈迦さまは答えます。

そして三人目の娘がお釈迦さまを讃^{たた}えます。

「執着の無いこの人は、多くの人々を死を迎える事の苦しみから救うであろう。」と。

再び娘たちは悪魔のもとに戻ると、悪魔はこう言います。

「愚かな娘たちよ。おまえたちは蓮の茎^{くだ}で山を砕き、爪で岩山を掘ろうとし、歯で鉄

を噛^かみ、岩石に頭を打ち付け、底の無い淵^{ふち}に足場を探そうとしている。あの者からは、嫌い離れなければならない。」と。

そしてついに、煩悩という悪魔を遠ざけて、お釈迦さまは悟りを開かれたのでした。

欲から離れた瞑想・思考する事無く行う瞑想こそ、道元^{どうげん}さまのいうお釈迦さまの姿、曹洞宗の坐禅の姿にほかならないのです。